

# 責任投資に関する方針声明

## I. 目的と適用範囲

「責任投資に関する方針声明（以下「方針声明」）」は、ヌビーン（以下「当社」）の責任投資へのコミットメントを内外に表明し、責任投資のアプローチが顧客にもたらす利益を明確にし、当社の理念を行動に移すための主な活動の概要を説明するために作成されています。当社は、「米国教職員退職年金／保険組合 Teachers Insurance and Annuity Association of America; TIAA）」の資産運用部門です。

方針声明は、当社とその投資関連会社のすべてに適用されますが、それぞれの関連会社は、顧客のために競争力のあるリスク調整後リターンを確保するため独自の投資手法を採用しており、企業の種類や原資産、現地市場の規制などによって異なる場合があります。方針声明の実施方法は市場の変化に応じて随時進化し、新たな形態をとることもあります。

## II. ヌビーンが「責任投資」を重視する理由

当社は、親会社である TIAA を通じて 50 年にわたり責任投資を主導してきており、責任投資への強い信念はその実績の上に培われています。当社は顧客から、受託資産の優れた管理者であるよう期待されていることを承知しています。そのため当社では、財務、社会、環境資本の保全に向け、十分に機能する市場を支える一連の原則を実施しています。当社は、投資リサーチやデューデリジェンス、ポートフォリオ構築、継続的モニタリングの中に環境・社会・ガバナンス（ESG）要素を組み込むという哲学とアプローチを採用しており、それが長期的な運用成績を高め、投資リスクを軽減すると信じています。当社は、すべての資産クラスの透明性とイノベーションを進め、責任投資のベストプラクティス（最善慣行）をグローバルに採用することが、投資先企業、投資家、社会、地域コミュニティ、ひいては世界全体に永続的な恩恵をもたらすと考えています。

## III. 責任投資原則

当社は、企業レベルで培ってきた能力に加え、（1）エンゲージメント、（2）ESG の統合、（3）運用資産全体でプラス効果を推進、という主要原則に基づいた資産クラスごとの具体的な活動を通じて責任投資の取り組みを実施しています。当社の各投資関連会社は、それぞれの投資戦略に基づいた独自の投資アプローチを採用する場合がありますが、当社は、これらの相互に補強しあう原則がすべての資産クラスの関連性と適用性を高めると考えています。当社は、業界団体への参加とリーダーシップを通じて、責任投資に関わるグローバルな基準・規範づくりに貢献しています。慣行が変化するなか、当社の活動は、市場動向および事業ニーズとの一貫性を確保できるよう今後も進化を続けてまいります。さらに、当社は引き続き、顧客その他のステークホルダーに対する責任投資活動の透明性確保に力を尽くしています。

### （1）エンゲージメント

当社は、発行体、投資先企業、テナント、関連する第三者機関および市場との対話を通じて ESG のベストプラクティスを奨励することが顧客の経済的利益にかなうと考えています。

当社は独自に、また他の投資家と協働し、公開・非公開会社に対して長期的利益の持続可能性に影響を与える ESG 課題の慣行を推進するよう促すため、当社の影響力や事業関係、議決権行使などの正式な経路を活用しています。当社は、規制当局、公共政策立案当局およびその他の業界団体との建設的な対話を通じ、長期的且つ持続的成長につながるものとして責任投資のベストプラクティスの推進をグローバルに支援しています。投資先企業からの関連性、一貫性、比較可能性のある ESG 開示を提唱することが、十分な情報に基づく投資判断を支えています。

当社では、責任投資のベストプラクティスに影響を与え、刷新するため、幅広い戦略をグローバルに活用しています。これらのエンゲージメント活動には以下のものが含まれます。

- **議決権行使**：当社は顧客に対するフィデューシャリー・デューティ（受託者責任）の一環として、投資先企業の株主および投資家として顧客の利益を擁護しています。当社は、議決権が確実に顧客の最善の利益となるように行使される堅牢な議決権行使プロセスを導入しています。当社の議決権行使の慣行と原則に関する追加情報は、ご要望に応じて提供いたします。
- **対話**：当社は、投資先企業の深い理解に基づき、最高経営責任者、シニア・マネジメント、取締役会、テナント、関連する第三者機関および市場との直接かつ建設的な対話の中で、いっそうの ESG 開示とベストプラクティスの採用を奨励しています。建設的な対話が望ましい結果を生まない場合、当社は多様な戦術を用いて当社のエンゲージメントを発展させていきます。
- **焦点を絞った取り組み**：当社は、企業、業種、テーマ別、国別のイニシアチブで測定可能な結果を得ることをめざしています。
- **市場戦略**：当社はベストプラクティスを生み出し、より有効な結果を得るため、同業他社、学際的専門家、業界関係者と協働しています。
- **政策への影響力**：当社は、責任投資のベストプラクティスに関する法律、公共政策、国際基準の整備を積極的に支援しています。

## (2) ESG の統合

当社は、投資分析、デューデリジェンス、モニタリング、ポートフォリオの構築において関連する ESG 要素を考慮することが長期的な投資価値を高め、ダウンサイドリスクの抑制につながると考えています。当社は ESG の統合を通じ、従来の財務分析の域を超えて十分な情報に基づいた投資判断ができるよう ESG のリスクと機会、メガトレンドを含めるなど、投資調査とポートフォリオ構築の審査基準の拡大に努めています。また、長期的な業界および事業体特有のトレンドを正確に予測するためには、関連する ESG 要素とその潜在的な影響を理解することも必要です。当社の ESG 統合活動では全般に、重要な ESG のテーマと要素の財務との関連性を高めること、投資プロセスにおいては質の高い ESG 情報の体系的なアクセスと取り込みを促進することを重視しています。ESG 情報の質や開示、入手可能性が継続的に改善しているため、投資ポートフォリオへの統合に向けて利用が拡大しています。エンゲージメ

ントを通じて得られた市場関連の知見は、互いに補強しあい、銘柄やセクター、運用管理レベルでの意思決定に情報面での厚みを加えています。

### (3) インパクト

当社は、すべての投資は社会と環境に影響を与えると考えています。当社はこれらの影響を評価し、可能であればプラスの影響を強め、マイナスの影響を弱めることをめざしています。資産クラス全体で長期的な投資収益を実現しつつ、社会と環境に具体的で測定可能なプラス効果を追求できる機会は増えています。当社はそうした機会を特定し、投資の影響を測定することに力を入れています。インパクト投資については、「インパクト投資の運用原則 (Operating Principles for Impact Management)」に合致するよう努めています。

当社は、これらの3原則の実施を通じて顧客、社会、地域コミュニティ、そして世界全体によりよい結果がもたらされるよう、引き続き全力で取り組んでいます。

## IV. 利益相反の管理

当社は、スチュワードシップ活動の過程で生じうる利益相反を回避または軽減するよう努めています。当社はこれを複数の手段、すなわち (1) 利益相反管理方針の発行を通じて、(2) 従業員の研修を通じて、(3) 統制の実施を通じて、(4) 従業員の個人証券取引と行動、従業員や会社または顧客もしくはその両方、投資先企業関係など、利益相反のおそれのある活動の監視を通じて行っています。当社の利益相反管理に係る方針、顧客有価証券の議決権行使等の慣行に関する情報は、当社関連会社各社の様式ADV、パート2Aに記載されており、一般に公開しています。